

「自立した読者」を育む読書感想文指導

On Teaching Book Report Writing for Developing Independent Readers

天野未来（越谷市立大間野小学校）、鈴木貴史（帝京科学大学）
Miku AMANO（Ohmano Elementary School）、Takashi SUZUKI（Teikyo University of Science）

要約： これまで読書感想文は、読書嫌いを招く一要因として多くの批判にさらされてきた。本報告は、こうした読書感想文の現状を鑑み、小学校の読書教育において、読書を自分から楽しむことのできる「自立した読者」を育成するための読書感想文のあり方について検討することを目的としている。その方法として、小学校において読書感想文に関するアンケート調査を行い、読書の実態、および読書感想文に対する児童の意識について探った。その結果、読書は好きであるが読書感想文が苦手であるという結果が得られた。このことから、小学校教育において「自立した読者」を育成するための読書感想文指導では、選書指導および書き方指導の充実が重要であることを指摘した。さらに、実際の読書感想文指導において活用できるワークシートを作成し、具体的な書き方指導法について提案した。

I. 研究の目的と課題

読書感想文とは、読書記録の一つであり、読書の推進活動の一環として捉えられている。たとえば、「青少年読書感想文全国コンクール」を主催する全国学校図書館協議会によれば、コンクールの目的について、「児童生徒・勤労青少年を対象に、読書活動の振興等を目的に1955年に始まった息の長い読書運動」と示されている。

しかしながら、これまで、読書感想文は、読書嫌いを招く一要因として多くの批判にさらされてきた（大村、1977など）。本報告は、こうした読書感想文の現状を鑑み、小学校の読書教育において、読書を自分から楽しむことのできる「自立した読者」を育成するための読書感想文のあり方について検討することを目的としている¹⁾。

読書感想文が、読書嫌いを招く要因について、鈴木（2019）では、読書感想文創設期の状況を歴史的に辿り、優良図書への誘導、すなわち選書による人間形成の一環として捉えられてきたことを確認した。さらに、1962（昭和37）年の第8回のコンクールから開始された課題図書により、良書への誘導が一層強まり、児童に対して読書選択の方向性が示されたことを確認した。こうして、読書感想文指導において課題図書を強要した場合には、児童による①自由な選択に基づく読書、②自由な読後感、という言語の入出力の双方に制限がかけられ、「自立した読者」の育成を阻む恐れ

があることを指摘した。

つまり、コンクールにおける課題図書は児童に優良図書を薦めるというメリットはある。しかし問題点としては、薦められた本が、児童が読んで楽しいと感じるものと一致するとは限らず、読んで感じたことを書こうという気持ちよりも、良い感想文を書こうという気持ちが先行してしまう場合がある。

さらに、読書感想文は、「読書は好きだが、読書感想文を書くことには苦手意識をもっている」という児童は少なくない」とされているように、書き方指導の不十分さも指摘されてきた（長崎、2018）。

そこで、本報告では、小学校において読書感想文に関するアンケート調査を行い、読書の実態、および読書感想文に対する児童の意識について把握することを試みた。そのうえで、読書から感想文指導への円滑な接続ができる指導法について考察した。

児童が読んで楽しいと感じられる本と出会い、その本の良さを自ら他者に伝えたいと思うようになることで読書の意義が実感でき、「自立した読者」の育成に繋がっていくと考える。この実現のために、本報告では小学校教育における読書感想文を取り上げ、その効果的な指導法について検討していく。

II. 読書感想文に対する児童の意識

1. 研究方法

本報告では、読書感想文を必須とする小学校における児童の読書感想文に対する意識や本の選び方、読書感想文の書き方等に関するアンケートを作成し、3年生から6年生を対象に調査を行った。

アンケート調査は、2018（平成30）年10月に東京都内のA小学校で行い、調査対象は児童数434名、回答数426名、対象学年3～6年である。アンケートは以下の内容（図1）で実施した。

どくしょかんそうぶん かん
読書感想文に関するアンケート

がくねん せいべつ
学年 _____ 性別 男・女

① 読書は好きですか。
はい・いいえ

② お気に入りの本がありますか。
はい・いいえ
→その本の好きどころ、面白いところはありますか。
[]

③ 本を選ぶときは何を見て決めますか。(いくつ〇をつけても良いです。)
著者・題名・表紙の絵・帯・量・字の大きさ・その他 []

④ 本を読むことが多いのはいつですか。
読書の時間・読書タイム・休み時間・家にいるとき・その他 []

⑤ 読書感想文を書くことは好きですか。
はい・いいえ
→その理由はありますか。
[]

⑥ 今年はどのような本で読書感想文を書きましたか。
題名 [] 著者 []

ご協力ありがとうございました。

図1 アンケート用紙

2. 調査結果

質問1（図2）の読書が好きかという質問では、「はい」が322人で76%、「いいえ」が104人で24%だった。

質問2（図3）のお気に入りの本があるかという質問では、「はい」が320人で75%、「いいえ」が106人で25%だった。

質問5（図4）の読書感想文を書くのは好きかという質問では、「はい」が110人で26%、「いい

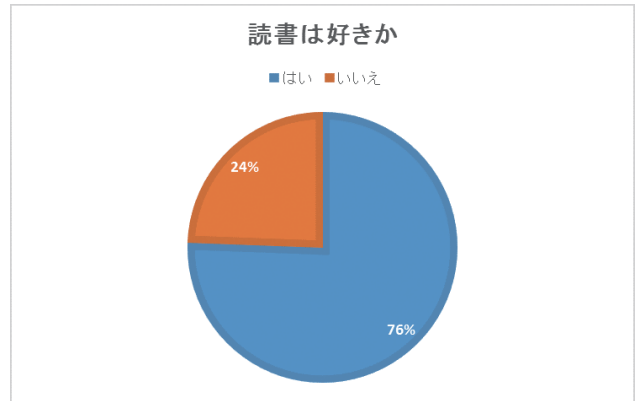


図2 「質問1 読書は好きか」

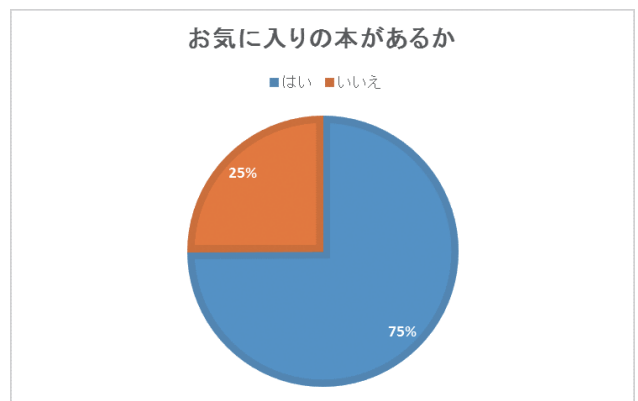


図3 「質問2 お気に入りの本があるか」

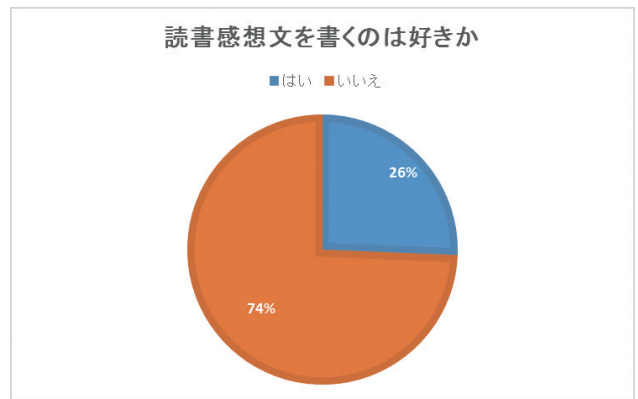


図4 「質問5 読書感想文を書くのは好きか」

え」が316人で74%となった。

なお、質問5において、読書感想文が好きでない理由を自由回答としたところ（図5）、最も多かったものは、「分量が多く時間が長くかかるから大変、面倒」（102人、34%）であり、次に多かったものは、「文章を書くのが苦手」（86人、28%）であった。そして、「書き方が分からない」（59人、19%）、「感想を文にするのが苦手」（28人、9%）、「読書が嫌い」（12人、4%）、「字が

汚いから」「本が選べない」(3人, 1%)であった。その他には、「賞が取れないから」、「直すときに全て消さなければいけないから」、「良いことを書こうとして本当の感想が書けなくなってしまう」、「文章を読み取るのが難しい」、「読んでいくと内容を忘れる」、といった回答があった。

以上、質問1と質問5の結果から、多くの児童は読書が好きであり、お気に入りの本もあることが確認できる。しかしその一方で、読書感想文は好きでないという児童が多くいることも確認することができる。読書感想文を好まない理由を見ても、「書く分量が多い」、「文章を書くのが苦手」といった「書くこと」に対して苦手意識を持っている児童が多いことも特徴的である。また、「書き方が分からない」や、「作文は書けるけど読書の感想を文にすることが苦手」といった読書感想文の書き方に対して不安がある児童がいることが確認できた。

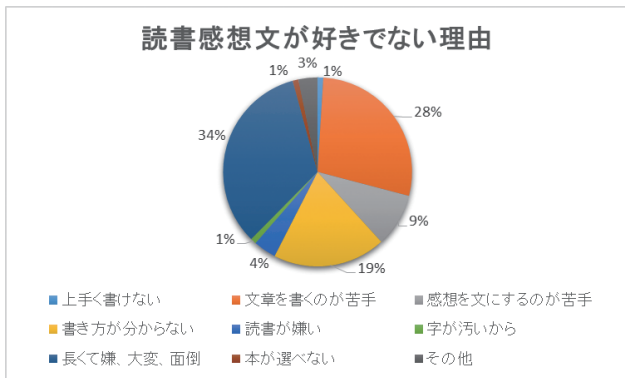


図5 「読書感想文が好きでない理由」

以上みてきたように、児童の読書感想文に関する調査結果から二つの課題を指摘することができる。それは、①読書そのものは好きであるが、読書感想文を書くことに抵抗感を抱いている児童が多いこと、さらにその理由として②読書感想文の書き方に不安を抱いていること、の2点である。次節以降において、これらの課題への対応策について検討していきたい。

Ⅲ. 読書感想文における書き方指導の現状

前節の調査結果で得られた読書感想文の課題について、読書感想文が、通常の授業の中で扱われることが稀であり、夏休みの宿題等で課されることが多いため、書き方についての指導が不十分であることによって生じていると考えられる。

たとえば、平成29年に改訂された「小学校学習指導要領」の「総則」では、「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、読書活動の充実を図ること」のように、読書活動の推進については記述があるものの、本文、解説全編を通して「読書感想文」の語句を見出すことができない。このことから読書感想文は、小学校における正規の教育課程で取り扱われにくい状況がある。では、実際の小学校教育では、どのような読書感想文の書き方指導が行われているのか、現状を概観しておきたい。

読書感想文の指導に関する書籍では、上條(2017a, b, c)、大竹(2018)、青木(2007)、工藤(2008a, b, c)などの児童向けの自主学習の補助となるもの(以下、「マニュアル本」と称する)に比べて保護者や教師などの指導者を対象とした書籍が圧倒的に少ないという現状がある。このことから学校教育における読書感想文の指導が、児童の自主性または家庭教育に委ねられていることを確認することができる。

先行研究において、児童に読書感想文を夢中で書かせるようにするためには、「山田式読書感想文」の指導方法を取り入れる方法が紹介されている(川上, 2018)。これは、「一つの作品の感想を学級全体で書くこと」がポイントであり、それぞれの「似た体験」を交流し、「見える化」することにより、児童が感想をもてるよう指導する方法である。具体的には、「1 一番心に残った事柄、初めて知ったこと」、「2. 1と合致する自分の体験や考え」、「3. 1と2を比べての、今の自分の考え」、「4. 本から得たこと、これから考えていきたいこと」の4点を書く方法である。低学年ではそのままの言葉では伝わりにくいため、「1. わたし(ぼく)が、一番おもしろかったところは、〇〇が□□したところです。そのわけは…」、「2. わたし(ぼく)にも、にたことがありました。それは、…」といったプロットを示す。そのほかの方法として、感想文を書き上げた後に回収し、ランダムに読み上げて、誰が書いたものかを当てるクイズ大会を行う。「作品と似た体験」が書いてあるため、それがヒントとなる。また、「クイズを作る」ということが、感想文を書く動機付けとなる。

また、前述の前学習院初等科の長崎(2018)で

は、「苦手意識を解消し、誰もが意欲をもって読書感想文を書くことができる」ように、児童の意欲を引き出すためには、「読書感想文の書き方のコツ」「読書感想文を書く方法」などを提示し、どのように書けばよいのかという書き方を指導するだけでは不十分であると述べている。

長崎は、具体的には「児童の意欲の引き出し、学習内容を定着させるためには、こうした読書感想文の書き方を自ら模索させることが重要である」と主張する。そのためには、「どのように書きたいのか」、「どのように書けばよいのか」といった問いを立て、自ら読書感想文の書き方を発見していく過程こそが大切であることから、「読書感想文の手引きを作ろう」という実践を提唱している。

この実践では、児童の行う具体的な活動として、まず優秀な読書感想文を読むことから始め、そこから発見したことを友達と共有し、話し合い「読書感想文の書き方手引き」を作成する。その上で、自分たちで作った手引きをもとに、読書感想文を書く。長崎は、「このような段階を踏みながら、児童自ら読書感想文の書き方を学び、夢中になって読書感想文を書くことができる」というコンセプトで学習を進めていく」と述べている。

長崎の指導の結果としては、手引きを作るという目的意識が明確であるため、誰もが熱心にすべにある読書感想文を読む姿が見られ、たくさんの発見をし、気づいたことをまとめていたり、それらを持ち寄って、個々の発見を共有したりすることができた。また、そうしてできた「読書感想文の書き方手引き」を使って、読書感想文を書いてみたいという意欲が高まったところで、共通の教材文で読書感想文を書いた。話し合いにあった内容を意識しながら読書をし、夢中になって感想文を書き進める姿が見られたという。

手引きの効果としては、与えられた既成の読書感想文の書き方を使うのではなく、自分たちで使った「書き方手引き」を使って書くことで、「読書感想文を書くことが得意になった」「読書感想文を書くことが好きになった」という声が児童から多く寄せられた。

こうした読書感想文の書き方指導に関する優れた先行研究は、参考にすべき点が多い。しかしながら、選書に関する指導を欠いているという点で「自立した読者」の育成という観点から考えれば

不十分である。

IV. 読書感想文指導の改善策

1. 選書指導

第Ⅱ節におけるアンケート調査の結果から、読書自体は好きであり、お気に入りの本がある児童が多いことを確認した。そのため、読書感想文を課す前には、日常の学校生活の中で読書をする時間を設け、読書カードを用いて読書の習慣をつけるとともに、読書の習慣がない児童もお気に入りの本を見つけられるようにすることが重要である。指導の時間は朝読書や朝学習の時間、国語科、学活の時間を主として用いることと考える。

学校の指導の中で、読書感想文の書き方指導が不十分である学校が多い中で、数多く児童向けの読書感想文の書き方についての本が出版されており、それらを参考に書いている児童も多いと考えられる。そこで、まずはこれらのマニュアル本を参照して、読書感想文の事前指導に活用できるワークシート作成を試みた。

工藤(2008a, b, c)では、低学年用、中学年用、高学年用と分かれており、本を読むときのコツから原稿用紙に向かう前にすべきこと、原稿用紙への書き方、読書感想文をよりよくするための方法、読書感想文の例、短編課題、本の選び方のコツ、というように、全7章で構成されている。

また、本の選び方や書き方の説明の文章の他に、あらすじをまとめたり、思ったことや考えたことを質問形式で埋めたりする“ワーク「おたすけシート」”があり、児童が一人で読書感想文に取り組みやすいようになっている。しかし、説明の文章が長く、読むこと、書くことが苦手である児童にとっては、読書感想文を書くためにもう一冊本を読まなければならない、という気持ちになってしまう可能性がある。

そこで、あらすじのまとめかたや、質問形式で埋めていくワークシートはこれを参考にし、書き方に関する文章を短くすることで、児童がより取り組みやすくなるを考える。

児童は読書記録として、ワークシート(図6)を作成し、児童がワークシートを埋めることで、その内容をつなげるだけで感想が作文として形になるようにする。

読書感想文を課す前の読書指導において、このワークシートを活用し、自分が読書感想文として書きたい本を適切に選択できるようにするのであ

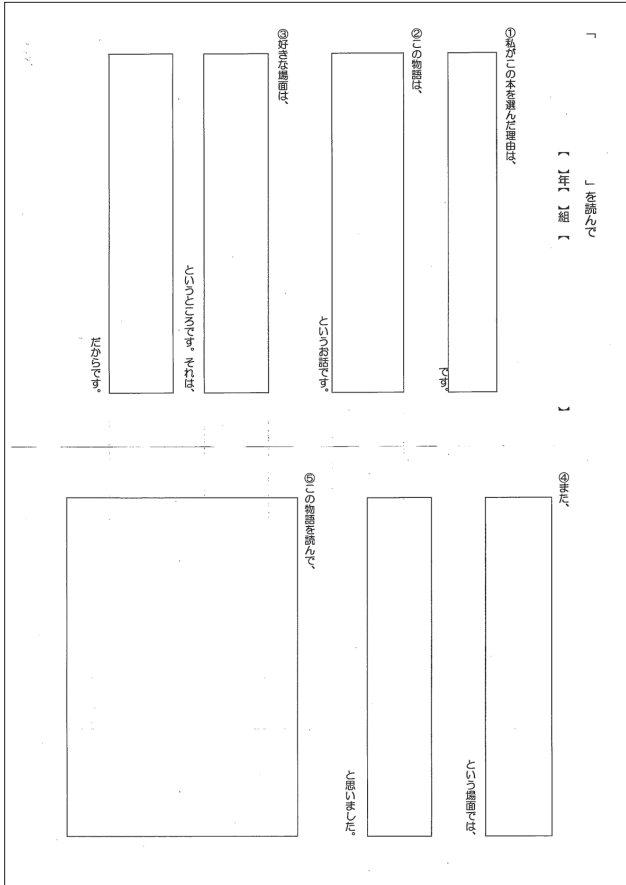


図6 ワークシート①

る。こうして、読書感想文の事前指導としての選書については、児童が今までに読んだ本の中からお気に入りの本を選ぶように進めていくことで、読書から感想を文章にまとめることへと円滑な移行ができると考える。

さらに、実際に作文用紙やワークシートに書き出す前に、隣の座席同士や班の中で感想文を書く対象であるそれぞれのお気に入りの本について話す時間を設け、児童がどのようなところが気に入るのか、面白いのかを頭の中で整理できるようにする。

その際に、友達を読みたくなるように紹介してみよう、などと話す内容を設定することで、対話が円滑に進み、豊かな感情表現が育まれると考える。

2. 書き方指導

マニュアル本の多くは、「第〇章」や「レッスン〇」というように、本を選び、選んだ理由を書き出し、あらすじをまとめ、思ったこと考えたことを書き出し、最後に原稿用紙に書く、というように、少しずつ段階を踏んで進めていくように

なっている。

上條（2017a, b, c）では、読書感想文の文例を挙げておもに表記と構成について、どのように原稿用紙に書いていくかが示されている。しかし、児童が選択した本とは異なる本で書かれた読書感想文が例示されていることから、自分が読んだ本に置き換えて読書感想文を書いていくことが難しい児童もいると考えられる。

そこで、本報告で提案する書き方指導におけるワークシートは、原稿用紙に書く全ての内容を一枚のワークシートにまとめて書き出すのではなく、何枚かに分けて、段階を踏んで進めていくのがよいと考える（図7、図8）。4枚のワークシートは、概ね①が「はじめ」、②と③が「なか」、④が「おわり」にそれぞれ対応している。上條（2017a, b, c）における構成法の説明は、「はじめ（緑）」、「なか（赤）」、「おわり（青）」、と色分けされている。これは構成を理解する上で、小学生にもわかりやすいため、本報告で提案するワークシートに書き出したうえで原稿用紙に書く前に色分けを児童に意識させる方法は効果的であると考えられる。

このように、4枚のワークシートを活用し、途中で到達点を作ることで、苦手な児童はここまでできたという達成感が得やすく、書くことに対する自信につながり、苦手意識の克服ができる。また、得意な児童にとっても、一枚終わったら次のワークシートに進めることで、充実感が得られ、さらなる自信へと繋がっていくと考える。

こうして段階を踏んで作成したワークシートを活用して、読書感想文としてまとめていくのである。原稿用紙にまとめてワークシートに書いた内容を作文としてまとめる際に学年に合わせたマスのかたちで作文用紙を作成し、使用する。

補足として、原稿用紙に書く前に、接続詞を入れておくと円滑に進むのではないかと考えられる。つまり、各段階（色ごと）のワークシートのほか、接続詞を含めて短い文章にしてワークシートにまとめていくことを段階的に指導できれば、原稿用紙に感想文をまとめることも容易になり、少なからず児童が読書感想文を書くことの困難さを乗り越えることができるものと考えられる。

V. 考察及びまとめ

以上、本報告では、現在、多くの小学校が夏休みの宿題として出している読書感想文の書き方指

読書感想文マスター① 名前	
選んだ本	
作者	
◎本を選んだ理由	
この本がしゅつ出会いましたか。	
この本についてこの物語を選びましたか。	
読書感想文マスター② 名前	
◎あらすじ	
登場人物は誰ですか。	
登場人物はどのような人物ですか。	
年齢、性別、仕事、住んでいる所、性格、特徴など	
この本のあらすじを、登場人物はいつにまじりましたか。	
最後に登場人物はどうなりましたか。	

図7 ワークシート②

読書感想文マスター③ 名前	
◎感想	
好きだな、と思う場面はありますが、なぜそれが好きだと思いましたか。	
いやだな、と思う場面はありますか。なぜそれがいやなのですか。	
もしあなたが登場人物になったらどう思うか。	
読書感想文マスター④ 名前	
◎まじり	
この物語を読んで、考えが変わったことはありますか。	
この物語を読んで、友達に伝えたいことはありますか。	
この物語を読んで、作色し伝えたいことはありますか。	
この本を読んで、今後あなたはどのようにしていきたいですか。	

図8 ワークシート③

導が十分になされておらず、読書嫌いを招いていると批判されている状況に対して、「自立した読者」を育む読書感想文の指導法を考察した。

読書感想文の場合、「書くこと」は「感想」なのだが、児童に対して、「何を書いてもいいよ」と言うような無制限な自由を与えることは、なにも支援していないのと同じである。読書感想文を書くことに苦手意識のある児童にとっては、非常に苦痛な活動となり、苦手な「感想」を、原稿用紙を埋めるために、物語のあらすじを永遠と書くことになりかねない。そこに加えて、書くことに対してさらに苦手意識が深まってしまう危険がある。

第Ⅱ節の児童へのアンケートの結果から、現在の小学生は、読書が好きであり、お気に入りの本があるという児童が多数であるということ、さらに、読書感想文は本の選び方や書き方、書く内容がわからないから苦手である、ということを確認することができた。

そこで、読書タイムや図書の時間を活用し、今までに児童が読んだことのある本の中から、お気に入りのものを選んで、読書感想文を書くように

していくべきであると考え、先行研究や出版されている読書感想文の書き方のマニュアル本をもとに、段階を踏んで読書感想文の指導法を考案した。その流れは以下の通りである。

- (1) 事前ワークシートを活用し、児童が読んだ本の感想をワークシートにまとめていく。
- (2) 上記 (1) の中から児童がお気に入りの本を選択し、読書感想文の題材とする。
- (3) 上記 (2) で選択した本に基づき、ワークシート①～④を作成する。
- (4) ワークシートに基づき、原稿用紙に読書感想文をまとめる。

このほか、先行研究にみられたように、(2)で題材が決まったら、(3)ワークシート作成の前に、読書感想文の完成形を児童に読ませ、読書感想文がどのようなものなのか、何を書けばよいかをイメージできるようにすることも考えられる。そしてグループで話し合った後、学級全体で意見を持ち寄り、読書感想文の手引きを作成す

る。そこで完成した手引きをもとに、ワークシートを作成して、「はじめ」「なか」「おわり」に分けて質問形式で書き込めるようにし、最終的に原稿用紙にまとめられるようにしていく。ワークシートや原稿用紙は学年に合わせて作成し、使用するのである。

以上、本報告では小学校における読書感想文指導に対して、児童が楽しいと思える本、お気に入りの本と思える本との出会い、すなわち選書指導と、丁寧な書き方指導を重要視することを提案した。

こうした、選書と感想文の指導が円滑に接続することにより、読書感想文を通して「自立した読者」の育成の可能性が広がるものと考えている。

本報告の課題として、二点挙げられる。一点目は、読書感想文の書き方指導について考案したことの効果については、今後検証の必要があるという点である。二点目は、自分自身が担任教員として読書感想文指導を行う際に、教育課程の中で教科、学活などどの時間を活用するのか、さらに相応の時間が確保できるかどうか指導計画を定めていく必要がある点である。この二点に関しては、今後の課題としたい。

謝辞

アンケート調査に、ご協力いただきました東京都内A小学校の教職員および児童の皆さまに感謝申し上げます。

付記

本報告は、帝京科学大学教育人間科学部児童教育学科における平成30年度卒業論文（天野未来「小学生が意欲的に取り組む読書感想文の指導法」）に加筆、修正をおこなったものである。

注

- 1) 山元 (2015, pp27-29) は、読書教育の目標とは、「自分の力で読むことを楽しむことのできる読者（読み手）を育成すること」（傍点引用者）、すなわち「自立した読者の育成」であると述べている。本報告における「自立した読者」はこれに依拠している。

参考文献

- 赤木かん子 (2009). 『お父さんが教える読書感想文の書きかた』. 東京：自由国民社.
- 秋田喜代美 (2018). 「これからの読書を考える－

- スマホ時代の読書と子どもの発達－』. 『児童心理3月号』, 1-10.
- 青木伸生 (2007). 『必ず書ける あなうめ読書感想文』. 東京：学研プラス.
- 上條晴夫 (2017a). 『読書感想文がスラスラ書ける本 (小学1・2年生)』. 東京：永岡書店.
- 上條晴夫 (2017b). 『読書感想文がスラスラ書ける本 (小学3・4年生)』. 東京：永岡書店.
- 上條晴夫 (2017c). 『読書感想文がスラスラ書ける本 (小学5・6年生)』. 東京：永岡書店.
- 川上弘宣 (2018). 「「似た体験」を「見える化」する』. 『教育科学 国語教育10月号』, 24-27.
- 金田一秀穂 (2013). 『書きかたがわかるはじめての文章レッスン1 読書感想文・作文』. 東京：学研.
- 工藤順一 (2008a). 『かんたん！読書感想文 スラスラ書ける10の魔法 1・2年生用』. 東京：学校図書.
- 工藤順一 (2008b). 『かんたん！読書感想文 スラスラ書ける10の魔法 3・4年生用』. 東京：学校図書.
- 工藤順一 (2008c). 『かんたん！読書感想文 スラスラ書ける10の魔法 5・6年生用』. 東京：学校図書.
- 文部科学省 (2018). 『小学校学習指導要領』. 東京：東洋館出版社.
- 長崎育恵 (2018). 「みんなが夢中で書く読書感想文－「読書感想文の書き方手引」を作る過程での学びを大切に－』. 『教育科学 国語教育 10月号』, 28-31.
- 大村はま (1977). 『読書生活指導の実際』. 東京：共文社.
- 大竹稽 (2018). 『読書感想文書き方ドリル 2018』. 東京：ディスカヴァー・トゥエンティワン.
- 杉本直美 (2010). 『自立した読み手が育つ読書生活デザイン力』. 東京：東洋館出版社.
- 鈴木貴史 (2019). 「読書感想文における「自立した読者の育成」に向けた課題』. 『学校図書館研究 第21号』, 4-16.
- 山元隆春 (2015). 「読書教育の過去と現在』. 山元隆春 (編) 『読書教育を学ぶ人のために』 (pp.21-39). 京都：世界思想社.
- 山崎絵美, 工藤順一監修 (2015). 『書きこむだけで読書感想文がすらすら書ける!』. 東京：合同出版.